

KSKQ

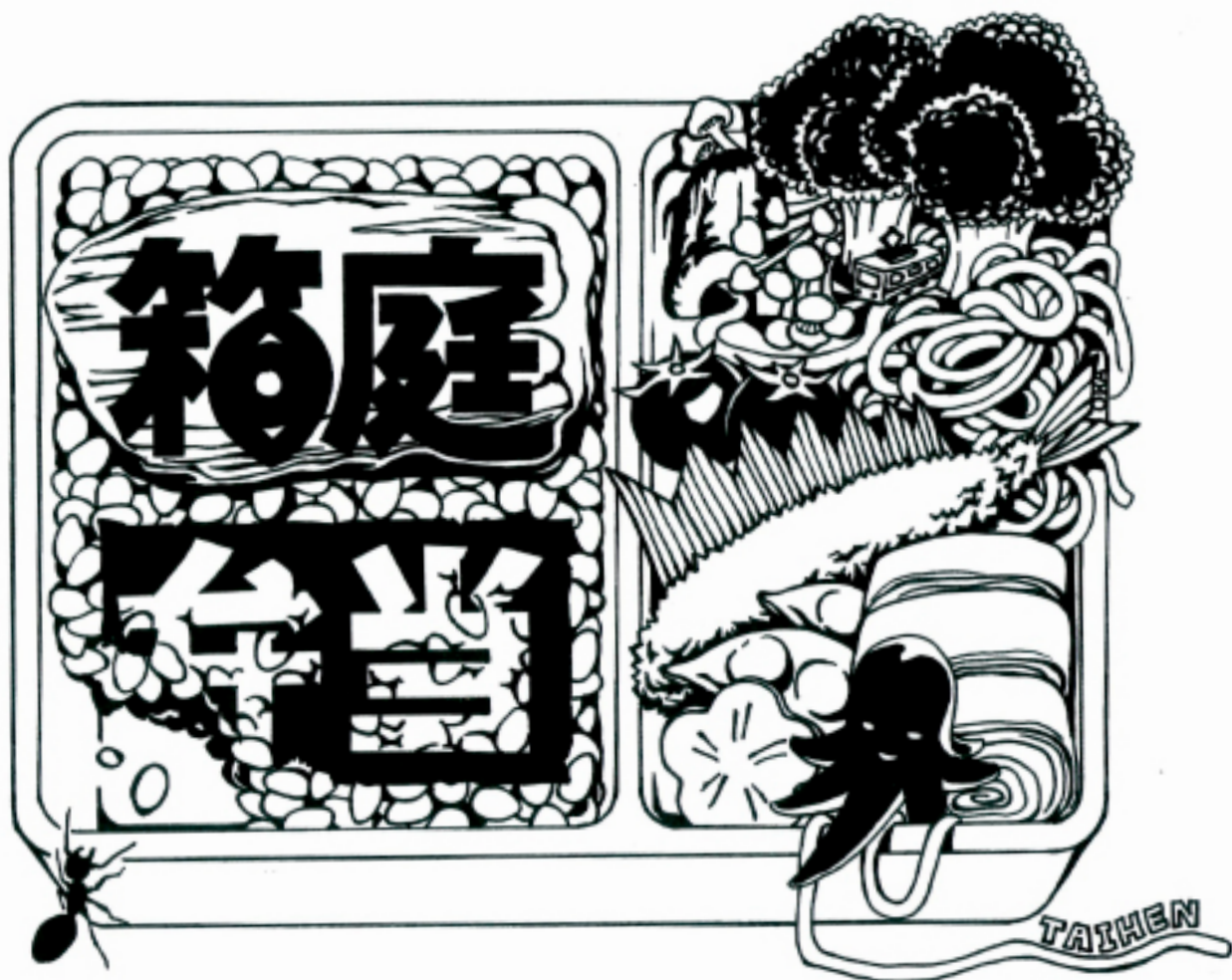
イマージュ

2019年11月

態変、新境地の舞台  
 『モノガタルカラダ／物語る声』  
 12月メタモルホールに現れる

2020年『箱庭弁当』大旋風  
 横浜・東京 ダブル公演決定！

情報誌イマージュ 祝25周年



1991年9月3日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

深まる秋の頃、お手紙させていただきます。

立て続けの台風の被害の余波で未だに大変な苦闘をされているみなさまがいらっしゃることに、思いを馳せております。

そのような中、劇団態変の近況ダイレクトメールをさせていただく、勝手をお許しください。

態変は今年に入り、2月に私のソロ『ウリ・オモニ』を東京ザ・スズナリ、6月に『箱庭弁当 - さ迷える愛 破』を兵庫県伊丹市アイホール、と充実した公演を打たせて頂きました。このように今年前半に公演が固まってあってから、ぱったりと動きをお伝えすることのないまま、気づけば秋に公演が一切ないという事態に。態変にとって芸術の秋にこのような休眠状態となるのは19年ぶりのことです。

それはある意味、がむしゃらに駆け抜けてきた20年近くへの、思わぬご褒美にさせていただいたようなものだと感じています。

しかし、そろそろ目覚めの時です。

急に決まった企画ですが、12月15日、一日限りの、これまでにない、言葉での語りと金満里ソロ、のコラボレーションです。

コラボのお相手は、語りと歌を三味線に載せて演られる山伏祭文説経節の渡部八太夫さん、と、そして情報誌イマージュ Vol.73 で私と印象深い対談をしてくださった姜信子さんが幕前に案内人として物語の概要を語ってくれます。

僅か30～40分のステージなので、一日で違う作品を4本立て続けに演ろうと欲張ってしまいましたが、さてどうなるかは、ぜひその目で見届けにご来場いただければ幸いです。

あとは来年に向けた態変の（現段階で発表できる）活動の、あ、っと驚く公演の予定を初公開致します。

どうぞ、最後までお付き合いください。

金満里

金満里×姜信子 企画

**モノガタルカラダ / 物語る声**

金満里 (身体表現) 渡部八太夫 (三味線、語り、歌) 姜信子 (口先案内人)



台詞を使わずに身体でのパフォーマンスを追求してきた金満里の身体が、渡部八太夫氏による歌と三味線の空間を舞う。

そんな新境地の舞台を、極小空間メタモルホールにてお届けします。

お相手の渡部八太夫氏は、「説経祭文」の現代的再生に取り組みながら、様々な物語を三味線で歌い語る、声の表現者。舞台の上では何かを明確に「言葉化」することを一切避けてきた金満里の身体は、空間いっぱい語られる言葉とどのようにぶつかり、響きあうのか。

時間を経ることで研ぎ澄まされてきた古典のことばと、今という時代の声にならない声を求め料となった前衛芸術が出会う場としても、かつてない取り組みとなるでしょう。

旅をしながら声を集める稀有な作家・姜信子氏を案内人として、体と声が奏でる4つの世界に皆さまを誘います。

異色顔合わせの、すべて一回限りの4作品です。

どうぞお見逃しなく。

**2019年12月15日 (日) メタモルホール (劇団熊姿アトリエ)****第1回 11:00～ 「母は信太へ帰るぞえ」 (説経祭文「葛の葉 子別れ」)**

和泉国信太の森の千年狐葛の葉を母に持つ陰陽師安倍晴明の物語は、説経「信太妻」を原型として、瞽女唄、浄瑠璃、説経祭文と、日本の語り芸のなかで大いにさまざまに語られてきました。今回渡部八太夫が語るは、狐の本性がばれてしまった母・葛の葉がまだ幼い童子丸(安倍晴明)を置いて信太の森へと帰ってゆく「子別れ」の場面です。

**第2回 14:00～ 「もう一べん人間に」 (石牟礼道子『苦海浄土』第一部 第三章「ゆき女きき書」より)**

石牟礼道子がまるで巫女のようにして、声なき水俣病患者の声をわが身におろし、浄瑠璃のごとくに語りだしたのが『苦海浄土』三部作です。そのなかでも、絶唱とも言うべき、劇症水俣病患者川上ゆき女の声をもタモルホールに放ちます。

**第3回 16:30～ 「あゝ全くたれがかしこくたれが賢くないかはわかりません」 (宮沢賢治『度十公園林』)**

宮沢賢治の童話のなかでも、「聖なる愚かもの」を描いた珠玉の作品です。主人公の度十はきっと賢治でしょう。公園林を作り上げた度十に宿った十力は、賢治が信じた神仏の力なのでしょう、度十公園林とは、賢治がこの世に残した祈りの声なのでしょう。

**第4回 19:00～ 「一輪の花の力を念じて」 (渡部八太夫節付「いのちの音曲集」より)**

「いまなぜライなのか」(詩 弐雄二)～「うたまたひとつ」(詩 金時鐘)～「花を奉る」(詩 石牟礼道子)  
原初、歌は祈りでした。祈りを忘れた歌は命を惑わします。惑わぬ命の場を開きます。三つの歌で。

**●チケット料金 (組み合わせは自由です)**

1公演 2000円 2公演 3500円 3公演 5000円 4公演 6000円

※介護者同伴の障がい者は介護者1名のみ無料 ※学生証提示で500円引き ※各回30人限定(車イス席2席あり)

**●公演の詳細は、同封のチラシをご参照ください。**

## 情報誌「異文化の交差点・イマージュ」 創刊から四半世紀！

※「イマージュ」とは、今読んでくださっているこのダイレクトメールの表題でもありますが、他に、1冊500円の購読料をいただいて年に3回発行しているA5版・80頁ほどの小冊子もまた「イマージュ」と題しております。その有料の冊子について。

この12月に刊行すべく編集集中の「イマージュ」最新号は75号。

年3回発行というペースで続けてまいりましたので、75号ということは、えっ！25年ってこと？なんと気付いてみれば四半世紀。

創刊号を引っ張り出してみたら確かに1994年8月とありました。2019 - 1994 = 25 確かに！

我が事ながら、このしぶとさには感じ入るものがあります。

この「異文化の交差点・イマージュ」という雑誌は何なのか。この機会ですので書いてみます。

劇団態変の旗揚げ（1983年）から10年目に初の海外公演がなんとケニア公演として降って湧いてきて1992年に命からがらそれを実現。めでたしめでたし、ではあったのですが、しかし、途方もないプロジェクトは集団にガタをきたすものです。劇団存続の危機。そこで、私達はもっとあちこちとクロスオーバーするような視野の広げ方で突破しようと1994年に故・大野一雄さんとのコラボレーションと、金子郁容さん（情報理論からボランティア論を展開）・一番ヶ瀬康子さん（福祉文化論）・金満里によるシンポジウムを組み合わせた企画をぶち上げ、そして、それをやりっぱなしでは勿体無いやんか、という思いつきで創刊したのがこの雑誌でした。（態変主宰の金満里は40年前に地域での障害者自立生活を始めた頃から文字媒体での発信に意欲があり、それがこの雑誌創刊の背景だったことも付記しておきます。）

沢山購読していただければ劇団の活動資金にもなる、という皮算用は今の所あまり芳しい成果を挙げておりませんが、こういう窓口から色々な表現者・活動家と出会っていくことが、劇団態変の活動を深め継続させるための大事な活力供給源となって来たことは疑うべくもありません。

なにしろ、異分野のクロスというのはワクワクするものです。

濃すぎる、お腹一杯、消化しきれない（つまり取っつきにくい）、というご批判を受けることもままありますが、こういうヘンコツな発信が世の中に一つや二つあってもエエジャーナイカということで、四半世紀を越えてももうしばらく続けさせていただきたく、ご購読のほど、何卒よろしゅうにお願い申し上げます。



## 【最新刊75号】12月中の刊行を目指しています

◆恒例の対談は、大椿裕子さん―「首を切られた非正規労働者」として参議院選挙に打って出て2000万の非正規労働者団結せよ!と訴えた人―と金満里が「労働」について「人間解放」について熱く語り合いました!

◆「かもめ組・乱場!」浪曲とパンソリという日韓の放浪芸のクロスについて、神仏習合を全否定した明治維新に始まる日本の歪みについて、など、エキサイティングな鼎談。姜信子(放浪の作家)・玉川奈々福(浪曲)・安聖民(パンソリ)・内田樹(思想家・武道家)

◆あいちトリアンナーレ「表現の不自由展」その後・検閲事件は、いよいよ日本も来るところまで来てしまったかと思わせる深刻な事態。それをめぐって寄稿多数。また、1930年代のスペインで芸術を通じ自由を戦った詩人のガルシア・ロルカから学ぶ特集記事など。

◆キネマ・イマージュ『チリの戦い』

その他、色々

### 【お勧めの近刊】

#### 73号

◆対談 姜信子×金満里「声と、歌と、身体と」―中央アジアの「美しき天然」、東大法学部と養護学校、頭の上の神様、舞い降りてくる死者たち、神々の村のふゆじどん、声で身体でレジスタンス、命の哀しみ ―ここでの説明は難しいが、かき回されて深々と染み込んでくる対話でした。

◆講演「あるものを活かして、ないものを創る」保坂展人 ―政治に参加と協働を、を目指してきた世田谷区長の実践報告



#### 74号

◆対談 牟田和恵×金満里「やまゆり園事件から3年 今こそ愛を、家族を、問う」

◆特集「家族というものを捉え返す」

「家族」の存在が私達を不自由にすることは多い―特に障害者にとって、女性にとって。そもそも「家族」って何だろう? フェミニズムに立脚した気鋭の社会学者との対話。そして、「目からウロコ」の関連寄稿が4本。



### 「異文化の交差点・イマージュ」のご購読を、是非とも!

情報誌「異文化の交差点・イマージュ」は年3回発行です。

このDMに同封の郵便振込用紙でご入金いただければ、送料は当方負担で郵送させていただきます。

1冊:500円 / 年間購読1年間(3号分)1500円

## 2019年度の賛助会員が激減！是非ご支援を!!

劇団態変は活動基盤をめぐる情勢の変化を受け、2012年より賛助会員制度による運営を開始しました。

行政からの支援を受けず、賛助会員様の御支援により芸術創造活動を行なっていく試みは、お陰様で7年間継続することが出来ております。

活動内容も、2015年よりパフォーマー・インターンシップ制度を開始、態変パフォーマーを新たに多数輩出。2016年以降は毎年東京公演を行なう等、徐々に幅をひろげてきました。

しかし、今年度は秋公演が無く、例年の盛り上げとなる夏場のDMを発行出来ておりません。その結果、2019年度の賛助会員応募数が、例年を大幅に下回っております。更に、事務所のサーバー故障という、厳しい事態も起こりました。その後データは完全復旧しましたが、その諸経費は高額で、賛助会員応募数激減と相まって、今年度会計赤字必至の大きな打撃となっております。

こうした逆境に負けず、私たちは、2020年を劇団態変にとって更なる飛躍の年とするつもりです。

増税等もあり大変恐縮ですが、危機的状況にある劇団態変の活動を、皆様のお力で支えていただけないでしょうか？

何卒、よろしく願いいたします。

## 劇団態変は2019年度 新規継続 賛助会員を募集しています。

### 年会費

個人会員(年会費) ..... ー□ 5,000円

法人会員(年会費) ..... ー□ 20,000円

<ご入会方法> 下記いずれかの方法をお選びください。

#### 郵便振替

同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。

口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

#### PayPal

メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。劇団態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。

### 会員特典

- ・会員証発行
- ・劇団態変公演映像DVD進呈（毎年1回当該年の公演ダイジェスト映像）

（個人会員特典）

チケット料金500円割引

（何度でもご利用可能です）

（法人会員特典）

一作品1名様ご招待

## 2019年 劇団態変 活動記録 (6月～11月)

6/21-23 『箱庭弁当』公演 @伊丹アイホール

7/14 さなぎダンス #13

7/26 7.26 障害者大虐殺 追悼アクション 2019

8/24-25 夏休み 金満里の身体発見の表現ワークショップ 2日間

10/20 黒子ワークショップ

11/9 おしゃべりサロン vol.13

今こそ、芸術の力を爆発！

～スペインで生きた詩人ロルカの時代から、この地を見つめる～

.....

### 【募集中】

第5期 劇団態変研修生 (パフォーマー インターン) 募集 !!

障害者の特権！ 態変の舞台表現へ、あなたも一歩、踏み出しませんか

劇団態変では'19年度のパフォーマーになる前段のインターンシップ(研修生制度)募集の、体験ワークショップを開催、審査を行います。審査の結果如何により、劇団態変パフォーマー インターンとなることが出来ます。参加費無料です。奮ってご応募ください。



photo by bozzo

◎インターンシップ募集ワークショップ(参加費 無料)

日時 11月24日(日) 13:00-18:00

会場 態変アトリエ・メタモルホール 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

◎劇団態変インターンの条件

- ・身体障害があり、レオタード着用で舞台上、自力転がりができる
- ・一年間を通し、研修稽古に来る
- ・抜擢されたら、公演へ向けた稽古(日曜祝日)、公演本番に参加する

【申込み・問合せ】 劇団態変 office イマージュ

06-6320-0344 (tel/fax)

email taihen.japan@gmail.com

さ迷える愛 破

# 箱庭弁当

態変流、ファンタジーの世界  
2020 関東をひっくり返す！！

## 第一弾 TPAM 2020（国際舞台芸術ミーティング in 横浜）に登場！

TPAM（ティーパム）は、同時代の舞台芸術に取り組む国内外のプロフェッショナルが、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報・インスピレーション・ネットワークを得る場です。20年以上の歴史を経て、アジアで最も影響力のあるプラットフォームのひとつとして国際的に認知されています。（TPAM ホームページより）今回満を持して態変にお声がかかり、「TPAM ディレクション」プログラムに登場、『箱庭弁当』を上演します！席数に上限がありますが、一般のお客様も観劇が可能です。

詳細は TPAM のウェブサイトからご覧ください！ <https://www.tpam.or.jp>

作・演出・芸術監督 金満里  
演奏 ゆりかごから墓場までトリオ  
瀬戸信行／クラリネット 熊坂路得子／アコーディオン 宮坂洋生／コントラバス  
音 かつふじたまこ

公演日時● 2月9日（日）19:00 2月10日（月）19:30 2月11日（火・祝）18:00  
会場● KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ 神奈川県横浜市中区山下町281

### 出演者オーディション開催！

上記の公演に出演できる、身体障害者のエキストラパフォーマーを募集します。

身体をレオタードに包み、生き生きと表現してみたい方。

舞台上約8メートルを、転がり、ずり這い、などゆっくりでも良いので移動ができる方。

ぜひオーディションにお越しください。まわりの障害者の方へ、お知らせ下さい！

オーディション開催日 2020年1月11日（土）13:00から（予定）1時間程度

会場 KAAT 神奈川芸術劇場 アトリエ

参加料 無料 ※要参加の日程等、詳細は11/20頃、態変ホームページでUPします  
申し込み・お問合せ 劇団態変 [taihen.japan@gmail.com](mailto:taihen.japan@gmail.com)

## 第二弾 2020年秋、さらにパワーアップした『箱庭弁当』が東京上陸！

TPAM ではチケットが限定枚数のみの発売となり、入手の困難が予想されますが、どうぞご安心を。

秋には、さらに円熟味を増した『箱庭弁当』がお待ちしています！

情報は春頃に公開予定。次回 DM などでお知らせします。